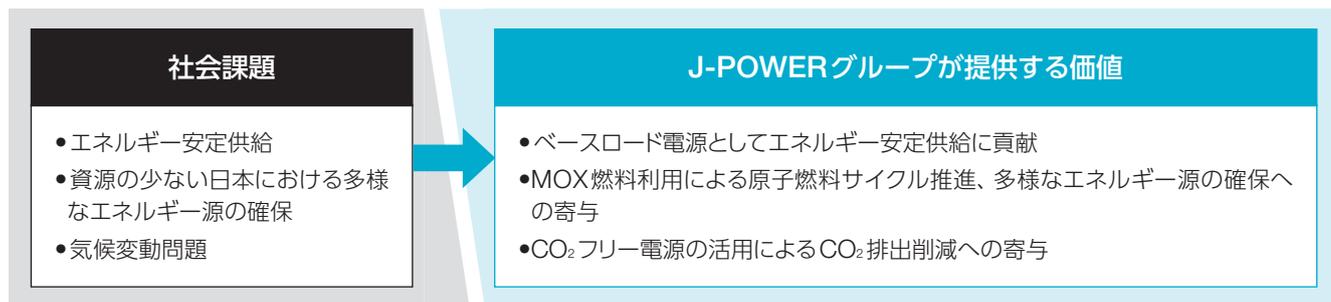


安全を大前提とした大間原子力の推進

原子力は、燃料となるウランが安定的に調達でき、少ない燃料で長期間発電が可能で、使用済燃料を再処理して再度燃料として使用できることから、安定供給性に優れた「準国産エネルギー」として、国内の電力需給を支えています。また、発電時にCO₂を排出しないため、気候変動対策の観点からも優れた発電方法の一つです。

J-POWERは2008年より、大間原子力発電所の建設を開始しました。その後、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ策定された新規規制基準への適合性確認のため、2014年12月、原子炉設置変更許可申請書および工事計画認可申請書を提出し、現在は原子力規制委員会による適合性審査を受けています。

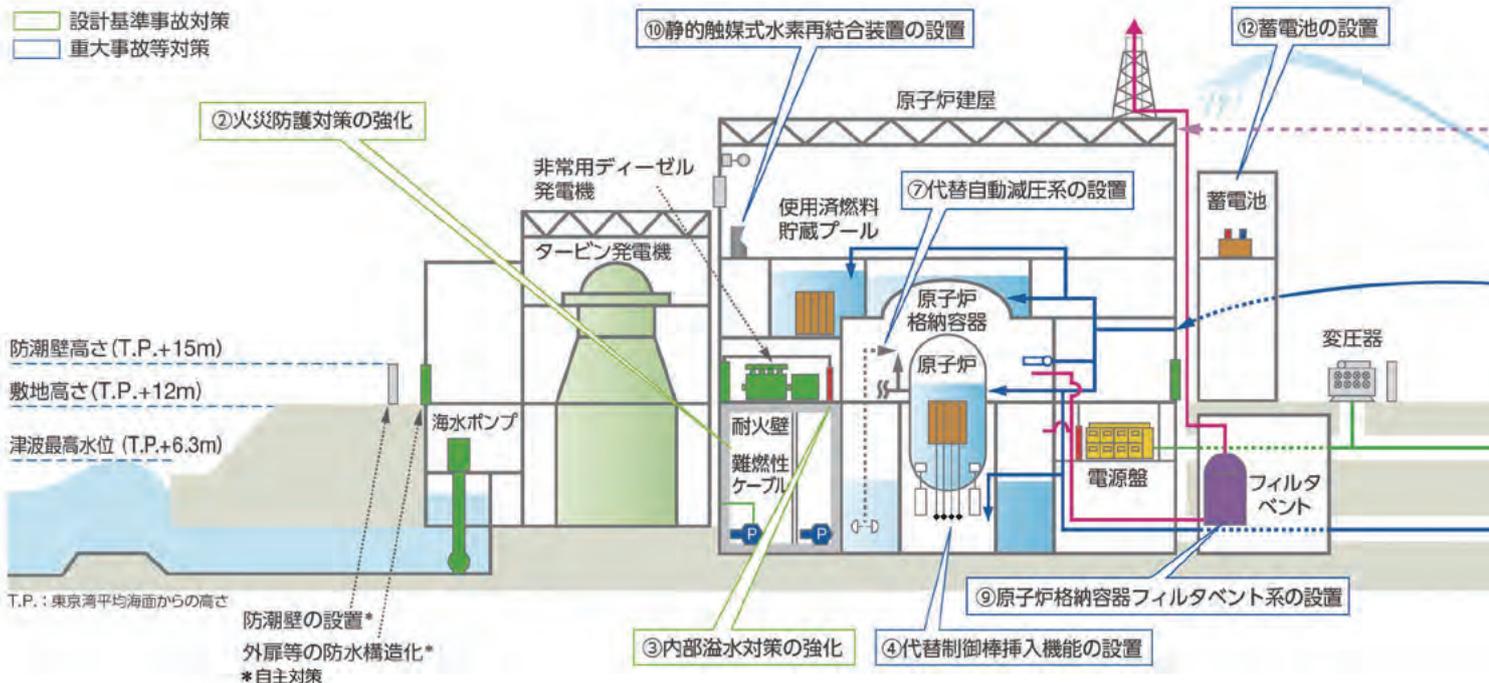
審査への早期合格を目指すとともに、一層の安全性の向上を不断に追求し、大間原子力計画を着実に推進していきます。



大間原子力発電所建設計画の概要

建設地点	青森県下北郡大間町
設備出力	138.3万kW
原子炉形式	改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)
燃料	濃縮ウラン、およびウラン・プルトニウム混合酸化物
着工	2008年5月
運転開始	未定

大間原子力発電所の安全強化対策の概要図



大間原子力発電所の安全強化対策と審査状況について

原子力事業本部長 浦島 彰人

エネルギー資源の少ない日本において電力の安定供給を実現するためには、使える資源を最大限に有効活用しながら、多様な電源をバランス良く利用することが重要です。原子力は、その優れた安定供給性から、日本において重要なベースロード電源であるとともに、発電時にCO₂を排出しない電源として、脱炭素社会の実現にも貢献します。その中でも、私たちが手掛ける大間原子力発電所は、使用済燃料を再処理して加工されたMOX燃料をすべての燃料として運転できるという特長を持っています。大間原子力発電所によるMOX燃料の安定的利用により、日本のプルトニウムバランスの改善が期待でき、ひいてはプルトニウムの平和利用について国際的な理解を得ることに貢献することができます。私たちは、日本のエネルギー政策の一翼を担う事業者としての覚悟を持って、本事業に全社一丸となって取り組んでまいります。

一方で、安全性が最重要事項であることは言うまでもありません。福島第一原子力発電所の事故を契機に、原子力規制委員会により新たに定められた新規規制基準は、世界でも最も厳しい安全基準といわれています。大間原子力発電所では、福島第一の事故から得られた教訓や、新規規制基準を踏まえた安全強化対策を取り入れています。例えば、津波や地震などの自然災害から発電所の安全設備の機能を守る設計基準の強化や、万一シビアアクシデント等が発生した場合に迅速に対応するための対策、テロリズム等を起因とする重大事故等への対策などが挙げられます。さらに、これらの対策に留まることなく、最新の知見を踏まえた自主的かつ継続的な安全性向上を図っていくことで、大間原子力発電所を世



界最高水準の安全な発電所とし、地域、日本に貢献できるよう取り組んでまいります。

大間原子力発電所は現在、原子力規制委員会による新規規制基準への適合性審査を受けています。2020年3月末時点でこれまでに36回の審査会合が開かれ、主に地震・津波の影響について審査中です。2018年には原子力規制委員会による現地調査が行われるなど、審査は着実に進捗しています。審査合格後は、審査結果を踏まえた施設の工事を実施し、工事完了後に燃料装荷、試運転を経て運転開始となります。

私たちは、世界最高水準の安全な大間原子力発電所に向けて、今後も審査に全力で取り組んでまいります。

(注)安全強化対策の詳細については当社HPをご参照ください。
▶ <https://www.jpowers.co.jp/ohmasp/01shinkisei.html>

